

多文化共生事業事例集		年度 R 6
団体名	(公財)大阪府国際交流財団	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業
		事業総額 2,298千円
事業名	社会福祉協議会と連携した在住外国人支援事業	
概要	地域の社会福祉協議会と連携し、在住外国人を対象とした相談会や先進事例の紹介を実施。併せて、社会福祉協議会、国際交流協会、行政及び民間等の職員を対象に、在住外国人支援の必要性を共通認識するための研修会やフィールドトリップを実施。また、在住外国人を巻き込んだ福祉活動を行い、社会福祉協議会と国際交流協会が連携して在住外国人支援活動を行う土台をつくった。	
事業の背景		事業の詳細
在住外国人が増加する中、年金・社会保険・福祉に関する情報提供や支援が不十分であり、特に家族帯同者や留学生へのオリエンテーション実施率は低い。福祉サービスの多くは申請により開始されるが、制度の理解不足により利用に結びついていない例が多い。今後は高齢化や家族の増加に伴い多様な支援ニーズが見込まれる一方で、国際交流協会は財政難から単独での対応が困難であり、連携による効率的な支援体制の構築が急務である。		①在住外国人支援の現状や好事例を把握するための調査 ●大阪府社会福祉協議会を訪問し、事業説明、意見交換、協力依頼を行なった。 ●府内の社会福祉協議会を対象に、現状把握のためのアンケートを実施した。 ●市町村社協連合会事務局長会議に出席し、当該事業説明及び協力依頼を行なった。 ●好事例把握のため、豊中市社会福祉協議会主催のコミュニティソーシャルワーカー実践研修会にOFIX職員2名が参加した。 ●福祉×多文化共生事例勉強のため、OFIX職員がに兵庫県社会福祉士会主催の滞日外国人ソーシャルワーク研修に参加した。 ②社会福祉協議会等のスタッフを対象とする共同事業(6回実施) ●第1回研修「多文化ソーシャルワークの必要性」6月18日(火)14:00～16:30 ●第2回研修「事例紹介」7月23日(火)14:00～16:30 ●第3回研修「多文化×民生委員」9月27日(金)14:00～16:30 ●第4回研修「民生委員・児童委員のためのやさしい日本語研修」1月29日(水)14:00～16:30 ●第5回研修「ヤングケアラーについて」2月4日(火)14:00～16:30 ●第6回研修「災害時の住民支援について」2月18日(火)14:00～16:30 ③外国人支援に積極的な社会福祉協議会との共同事業(2回実施) ●泉佐野市社会福祉協議会及び泉佐野地球交流協会(ica)との共催「外国人のための相談サービス(食料配布付き)」7月29日(月)13:00～16:00 場所：シャッピーハウス(泉佐野市社会福祉協議会 サテライトオフィス) ●外国人高齢者施設等へのフィールドトリップ 10月22日(火)10:30～15:00 行先：NPO法人エルファ(京都市南区、外国人高齢者施設)、東九条地域 概要：在日コリアンが多く住む京都市南区東九条のまちを歩き、その歴史と変遷についてNPO法人エルファ職員より話を聞いた。その後、在日コリアン一世が多く利用する当該施設を訪問し、施設ができた経緯や若い外国人介護人材の育成等について講義を受けた。続いて、施設利用者(在日コリアン一世)との交流活動を行なった。帰路、一部参加者で、京都市営住宅にて東九条まちづくりサポートセンター職員によるセンターの取り組み等についてレクチャーを受けた。
事業の目的		④外国人参加型の共同事業(2回実施) ●能登地域でのボランティア活動 11月29日(金)夜大阪発～12月1日(日)夜大阪着 場所：石川県輪島市門前町黒島町 概要：在住外国人、留学生及び大阪公立大学の大学生と共に借り上げバスで能登へ向かい、余震の影響で崩れた家屋の壁の撤去、家財道具の運び出し、9月の大雨で浸水した家の泥出し作業及び根太のブラッシング作業等のボランティア活動を、11月30日(土)～12月1日(日)の2日間行なった。11月30日(土)活動後には、現地での受け入れ機関である復興応援隊の代表 山本 義幸 氏から、ボランティア活動を始めた経緯や被災地の状況等の話を聞いた。 ●児童養護施設での交流活動 2月8日(土)14:00～17:00 場所：府内の児童養護施設 概要：大阪府社会福祉協議会から紹介を受けた府内の児童養護施設を在住外国人と共に訪問し交流活動を行なった。外国人参加者が各国の言葉や遊びを子どもたちに紹介し、一緒に体験した。その後、ドッチボールを全員で遊び、最後に子どもたちからは手話をまじえた歌のプレゼントを受けた。活動後には、学園長から園設立の経緯、設立時から現在までの子どもたちを取り巻く状況の変化等の話を聞いた。外国人参加者には、日本で社会福祉士の勉強をしている院生もおり、普段できない貴重な児童養護施設での体験となった。

⑤アクションプラン検討会(1回)

●3月14日に大阪府社会福祉協議会と、今年度の振り返り及び次年度の方向性について検討会を行った。



事業実施における工夫点・事業の成果等

①在住外国人支援の現状や好事例の調査:回答19件

②社会福祉協議会等のスタッフを対象とする共同事業:全6回、延べ参加者111名

③外国人支援に積極的な社会福祉協議会との共同事業(2回)

1.外国人のための相談サービス

件数:13件(在留資格6件、法律4件、福祉2件、子育て1件)

相談者:12人(日本語9件、中国語2件、シンハラ語2件)

2.外国人高齢者施設へのフィールドトリップ

参加者:18人(国流15人、行政2人、その他1人)

④外国人参加型の共同事業(2回実施)

1.能登地域でのボランティア活動

参加者:13人(中国人3人、マレーシア人1人、日本人大学生5人、大阪公立大1人、OFIX3人)

2.府内の児童養護施設での交流活動

参加者:10人(インドネシア1人、エジプト1人、韓国1人、中国3人、フィリピン1人、ブルガリア1人、OFIX2人)

研修では、大阪府社会福祉協議会及び泉佐野社会福祉協議会、泉佐野地球交流協会(ica)の他、武庫川女子大学、大阪府府民文化都市魅力創造局国際課、NPO法人国際活動市民中心、Minamiこども教室実行委員会、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会、NPO法人多文化共生サポートAdagio、大阪府民生委員児童委員協議会連合会、大阪市民生委員児童委員協議会、堺市民生委員児童委員連合会と連携し、講義及びワークショップを実施した。

研修参加者は社会福祉協議会及び国際交流協会の職員の他、大阪府国際課、大阪府警、大阪出入国在留管理局及び市区町村行政職員、NPO法人の職員・スタッフ、外国人を雇用する民間企業の社員、民生委員、個人(通訳、ボランティア、地域活動参加者)等、多岐にわたった。

社会福祉協議会との共同事業では、大阪出入国在留管理局及び大阪弁護士会、泉佐野市役所、大阪府警察本部外事課、泉佐野市社会福祉協議会、泉佐野地球交流協会(ica)、NPO法人エルファと連携し、相談会及びフィールドトリップを実施した。

外国人参加型の共同事業では、大阪公立大学ボランティア・市民活動センター(V-Station)及び大阪府生活協同組合連合会、大阪府社会福祉協議会、復興応援隊、府内の児童養護施設と連携して実施した。

今後の課題・将来に向けての展望等

今年度は、社会福祉協議会と国際交流協会が互いの業務を知り、関係作りのきっかけとなった。今後も引き続き社会福祉協議会と連携して各種研修及び事業を実施し、常日頃から連携しあえる関係性を築くことが重要である。将来的には、支援される側の外国人ではなく、福祉・子育て・災害時でも支援をする側の住民となることが求められる。そのためには在住外国人の方にさまざまな体験をしていただくとともに、受け入れ側も「やさしい日本語」の周知や外国人を取り巻く環境への理解など、課題はたくさんある。

次年度には、国際化協会などの多文化共生分野だけではなく、地域福祉につながるスタッフ等も対象とした講座やワークショップ、フィールドワークに並行して、地域の福祉資源の実態調査を行う。これらの取り組みから見えてきた課題の解決に向けた多分野での共同事業を実施する。

また、多様化・複雑化する外国人住民の抱える課題に取り組む人材の育成に向けた検討会も開催する。

事業担当者のふりかえり

児童養護施設訪問や能登地域でのボランティア活動など福祉事業に在住外国人を巻き込んでおこなったことが印象に残りました。研修会では、社会福祉協議会、国際交流協会の双方から、「お互いの組織、業務について認識が深まりました。今後は連携して住民支援を行っていきたい」という声を多く聞きました。在住外国人支援にはさまざまな機関との連携と、日頃から連絡しあえる関係作りが必要だと改めて感じました。

引き続き、国際化協会などの多文化共生分野だけではなく、地域福祉につながるスタッフ等も対象とした講座やワークショップ、フィールドワークを実施し、多様化・複雑化する外国人住民の抱える課題に取り組む人材の育成に向けた活動も行っていきたいです。